

川本喜八郎 + 岡本忠成 パペットアニメーション 2020

Kihachiro Kawamoto and Tadanari Okamoto, Puppet Animation Filmmakers

2020年12月19日 [土] - 2021年3月28日 [日]

※月曜日、12月28日 [月] - 1月4日 [月]、2月1日 [月] - 8日 [月] は休室です

国立映画アーカイブ 展示室 (7階)



『注文の多い料理店』

(1991年、岡本忠成脚本・演出、川本喜八郎監修)

人形や絵コンテなど様々な資料でたどる、 二人のアニメーション作家の偉大な足跡！

川本喜八郎 (1925-2010) と岡本忠成 (1932-1990) は、日本のアニメーション映画、とりわけストップモーション撮影による立体アニメーションの分野でそれぞれ類なき功績を残した作家です。両者とも日本でこのジャンルの礎を築いた持永只仁のもとから巣立ちましたが、二人の歩んだ道は対照的です。

人形映画の先進国チェコスロヴァキアで学び直した川本は、自らの生み出す端正なキャラクターに魂を吹き込み、生涯を人形に捧げた求道者として、テレビの歴史人形劇や外国との合作にも活路を見出しました。一方で子どもたちに照準を合わせた岡本は、平面・立体・半立体を自在に使い分け、木・皮・布・毛糸・紙・粘土など多様な素材をアニメートして、主に教育映画の分野で創造性を発揮しました。7歳の差はあったものの誕生日が同じ二人は、よきライバルであり、互いのよき理解者でもありました。

1970年代には、互いの作品上映と人形劇を組み合わせた公演「川本+岡本 パペットアニメーション」を共同で企画、6回にわたって開催し大きな話題を集めました。また後年、岡本の他界により制作が中断した『注文の多い料理店』(1991年)を完成に導いたのも、ほかならぬ川本でした。

当館は、フィルムセンター時代の2004年に展覧会「岡本忠成 アニメーションの世界」を企画、また二人の師・持永只仁を顕彰する展覧会も2017年に開催しました。そして川本の没後10年、岡本の没後30年となる2020年、再びこの分野に光を当て、人形をはじめとする撮影素材や作品制作のための様々な資料を展示し、二人の友情の象徴である「パペットアニメーション」の名を冠してその足跡をたどります。

「パペットアニメーション」とは…

「パペットアニメーション」とは、「パペットアニメーション（人形アニメーション）」と「パペットショウ（人形劇）」を組み合わせた造語で、川本喜八郎と岡本忠成によるアニメーション作品上映と人形劇上演を組み合わせた公演のタイトル。1972年にスタートし、特別公演を除いて1980年まで6回開催されて好評を博した。

プロフィール

川本喜八郎 (1925-2010)



『火宅』（1979年）制作中の川本喜八郎

東京・千駄ヶ谷生まれ。

旧制横浜高等工業学校（現横浜国立大学）建築科卒業。1946年、東宝撮影所美術部勤務。フリーとなって、1951年劇作家の飯沢匡らと共に人形芸術プロダクションを設立し、本格的に人形制作を始める。持永只仁作品の人形作りにも携わりながら、1958年CM制作会社シバ・プロダクションの設立に参加。1963年にはチェコに渡り、イジー・トルンカに師事する。1968年、第1作『花折り』を発表。日本の古典に取材した題材で独自の表現を確立し、NHKの『人形劇 三国志』など人形美術家としても幅広く活躍。岡本忠成の遺作『注文の多い料理店』は川本の監修で完成した。国内各賞の他、海外映画祭でも多数受賞。

岡本忠成 (1932-1990)



『虹に向かって』（1977年）制作中の岡本忠成

大阪府豊中市生まれ。

日本大学芸術学部卒業後、日本の人形アニメーションの礎を築いた持永只仁のMOMプロダクション入社。アメリカから受注した作品の制作に携わる。1964年に株式会社エコーを設立。第1作『ふしぎなくすり』から人形アニメーションの世界に新風を送る。その後、木彫、和紙、毛糸、皮、粘土などの素材、フォークソングや童謡などの音楽、義太夫節や岩手弁などの語りを用いた多様な手法と表現で、民話世界や社会諷刺など多彩な作品を作りつづけ、文化庁芸術祭大賞はじめ国内外で多数受賞。没後、その功績に対し毎日映画コンクール特別賞が贈られた。

本展の見どころ

- ★デビュー作から遺作まで、それぞれのアニメーション作品のために作られた人形に加えて、「パペットアニメーション」公演の人形劇上演で実際に使われた人形も展示します。
- ★人形の他にも貴重な**絵コンテ**をはじめ、**セル画**、**シナリオ**、**写真**などの制作資料約**190**点の展示を通して、今なお多くの人を魅了する作品を生んだ二人のアニメーション作家の創作の秘密に迫ります。
- ★**作品上映企画**を開催！詳細は後日HPでお知らせいたします。

展覧会の構成

第1章 | 修業時代

二人の共通点は「学び直し」を通じてアニメーション作家になった点である。川本は、絵本やCM用の人形作りと並行して持永只仁率いる人形映画製作所で技術を習得したが、作家として立つ契機になったのはチェコスロヴァキア留学時（1963～64年）にイジー・トルンカの薫陶を受けたことであった。また法学部出身の岡本は、一度は企業で働いたものの日本大学芸術学部にも再入学して立体アニメーションを志し、1961年から持永らのMOMプロダクションで実践を積むことで、作家となるための基盤を固めた。

〈主な展示品〉川本の人形を使った企業PR誌、川本のチェコ留学関連資料、岡本の卒業制作映画、MOMプロダクション在籍時の資料など

第2章 | 川本喜八郎 アニメーションの仕事

川本はアニメーションと人形劇という二つの分野で活躍した。NHKのテレビ人形劇『三国志』（1982～84年）や『平家物語』（1993～95年）が国民的な人気を得る一方、デビューから晩年まで、生涯を貫いて精根を傾けたのがアニメーション作品であった。自身が優れた人形美術家でもあった川本は、入念な準備により作品の全体像を綿密に構築してから撮影に臨むタイプの作家であり、初期には実験的な技法の作品も見られるが、本章ではデビュー作『花折り』（1968年）からチェコとの合作『いばら姫またはねむり姫』（1990年）まで、主に人形を用いたアニメーションの仕事をとどる。

〈主な展示品〉川本の代表的なアニメーション作品に出演した人形、絵コンテをはじめとする製作資料など



『花折り』（1968年、川本喜八郎監督）より「大名」、『鬼』（1972年、川本喜八郎監督）、『いばら姫またはねむり姫』（1990年、川本喜八郎監督）

第3章 | 岡本忠成 アニメーションの仕事

1964年に自身のプロダクションであるエコーを設立し、コンスタントに作品を発表した岡本は、1971年には自らのスタジオを開設、後年そこは時に川本の仕事場にもなった。原作の世界をよりよく表現するため、才能に溢れたスタッフとともに毎回新たな手法を模索する岡本の哲学は、素材の面で驚くべき多彩さを見せることになり、立体・半立体・セルなど技法面でも常に挑戦を欠かさなかった。代表作『おこんじょうり』（1982年）をはじめ、常に子どもたちを念頭に置き、日本のストップモーションアニメーション界をリードした岡本の仕事を検証する。

〈主な展示品〉岡本の代表的なアニメーション作品に出演した人形、絵コンテをはじめとする製作資料など



『ふしぎなくすり』（1965年、岡本忠成監督）絵コンテ、『ホーム・マイホーム』（1970年、岡本忠成監督）、『虹に向かって』（1977年、岡本忠成監督）、『おこんじょうり』（1982年、岡本忠成監督）より「おこん」

第4章 | 「川本+岡本 パペットアニメーション」の時代

撮る前から精緻に作品の完成形を整える川本と、制作時の勢いが作品ににじみ出るタイプの岡本—その対照的な作風の二人が意気投合し、人形劇（パペット）の上演と映画（アニメ）の上映を組み合わせることで実現した公演（ショー）が、1972年から1980年まで6回行われた「川本+岡本 パペットアニメーション」である。この画期的なイベントは、1971年に自身の作品上映会を催していた岡本の方から川本に提案したもので、立体をはじめ様々な技法を用いた短篇アニメーションという分野の楽しみを広く伝え、社会的に認知させることに貢献した。

〈主な展示品〉「川本+岡本 パペットアニメーション」のポスターほか公演宣伝資料、出演した人形、記録映像など

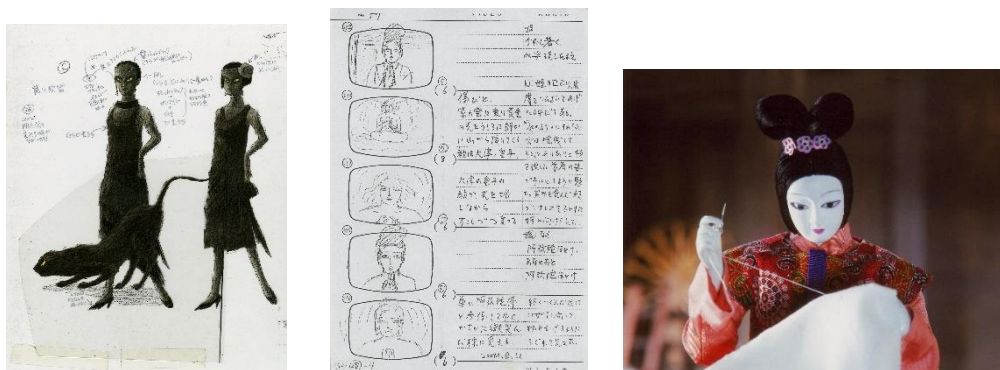


第1回「川本+岡本 パペットアニメーション」パンフレット（1972年）、第5回「川本+岡本 パペットアニメーション」より『世間胸算用近頃腹裏表』（1976年）

第5章 | 『注文の多い料理店』とその後

宮沢賢治原作の『注文の多い料理店』は、当初は人形アニメーション作品としても構想されたが、最終的には独特の空間表現のあるセル・アニメーションとして制作が開始された。惜しくも1990年に岡本が死去したため未完となったが、残された制作資料から岡本の意図を深く推し量り、長い格闘ののちに完成に導いたのは川本であった。図らずして最後の共同作業となったこの作品の背景を探求する。本章では『注文の多い料理店』に加え、川本の後期作品『冬の日』（2003年）と『死者の書』（2005年）などについても紹介する。

〈主な展示品〉『注文の多い料理店』の絵コンテをはじめとする製作資料など



『注文の多い料理店』（1991年、岡本忠成脚本・演出、川本喜八郎監修）色彩設定用セル画、『死者の書』（2005年、川本喜八郎監督）絵コンテ、『死者の書』（2005年、川本喜八郎監督）

作品上映企画

川本喜八郎+岡本忠成 アニメーション作品上映（予定）

2021年2月27日（土）、3月6日（土） 会場：国立映画アーカイブ 小ホール（地下1階）

* 詳細は後日ホームページなどでお知らせいたします。


* その他、関連イベントを開催する場合は、ホームページでお知らせいたします。

関連企画

本展覧会の開催に連動して、川本喜八郎の『道成寺』や岡本忠成の『おこんじょうり』ほか、両作家の傑作アニメーションをセレクトし、4K デジタル修復するプロジェクトが始動！

2021年5月8日（土）～ イメージフォーラムほかにて公開予定！（企画：株式会社 WOWOW プラス）

開催概要

<p>展覧会名</p>	<p>川本喜八郎+岡本忠成 パペットアニメーション 2020 (Kihachiro Kawamoto and Tadanari Okamoto, Puppet Animation Filmmakers)</p>  <p>展覧会チラシ</p>
<p>主催</p>	<p>国立映画アーカイブ</p>
<p>協力</p>	<p>有限会社 川本プロダクション、株式会社エコー、飯田市川本喜八郎人形美術館</p>
<p>企画協力</p>	<p>株式会社 WOWOW プラス</p>
<p>会期</p>	<p>2020年12月19日 [土] - 2021年3月28日 [日]</p>
<p>休室日</p>	<p>月曜日、12月28日 [月] - 1月4日 [月]、2月1日 [月] - 8日 [月] は休室です。</p>
<p>開室時間</p>	<p>午前11時 - 午後6時30分 (入室は午後6時まで) * 毎月末の金曜日のみ開室時間を午後8時まで延長いたします (入室は午後7時30分まで)</p>
<p>会場</p>	<p>国立映画アーカイブ 展示室 (7階)</p>
<p>アクセス</p>	<p>東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分 都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分 東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分 JR 東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分</p>
<p>料金</p>	<p>一般 250円 (200円) / 大学生 130円 (60円) / 65歳以上、高校生以下及び18歳未満、障害者(付添者は原則1名まで)、国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズは無料 * 料金は常設の「日本映画の歴史」の入場料を含みます。 * () 内は20名以上の団体料金です。 * 学生、65歳以上、障害者、キャンパスメンバーズの方は入室の際、証明できるものをご提示ください。 * 国立映画アーカイブの上映観覧券(観覧後の半券可)をご提示いただくと、1回に限り団体料金が適用されます。</p>
	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、マスク着用のない方のご入館をお断りいたします。 また、混雑状況により入館を制限することがあります。 詳しくは当館ホームページをご確認ください。(https://www.nfaj.go.jp/ge/topics/20200625/)</p>
<p>お問合せ</p>	<p>050-5541-8600 (ハローダイヤル)</p>
<p>HP</p>	<p>https://www.nfaj.go.jp/exhibition/puppetanimashow/</p>

【本展覧会に関するお問合せ】

国立映画アーカイブ
 事業広報担当：横田 / 展示・資料室：岡田・濱田
 〒104-0031 東京都中央区京橋 3-7-6
 MAIL：pr@nfaj.go.jp
 TEL：03-3561-0823 FAX：03-3561-0830

広報用画像&読者プレゼント招待券申込書

川本喜八郎+岡本忠成 パペットアニメーション 2020

送付先 国立映画アーカイブ 広報担当行 メール: pr@nfaj.go.jp FAX: 03-3561-0830

* 広報用画像をご希望の方は、本プレスリリースに掲載されている画像右下の番号をご参照の上、貸出を希望されるデータの□にチェックをつけ、上記の宛先までをご送付ください。

①	『火宅』(1979年)制作中の川本喜八郎 (有)川本プロダクション所蔵
②	『虹に向かって』(1977年)制作中の岡本忠成 (株)エコー所蔵
③	『花折り』(1968年、川本喜八郎監督)より「大名」[撮影:田村実] 飯田市川本喜八郎人形美術館所蔵 ©(有)川本プロダクション
④	『鬼』(1972年、川本喜八郎監督) [撮影:田村実] ©(有)川本プロダクション
⑤	『いばら姫またはねむり姫』(1990年、川本喜八郎監督) ©(有)今日、(有)川本プロダクション
⑥	『ふしぎなくすり』(1965年、岡本忠成監督) 絵コンテ (株)エコー所蔵
⑦	『ホーム・マイホーム』(1970年、岡本忠成監督) ©(株)エコー
⑧	『虹に向かって』(1977年、岡本忠成監督) ©(株)電通テック、(株)エコー
⑨	『おこんじょうり』(1982年、岡本忠成監督)より「おこん」[撮影:田村実] (株)エコー所蔵
⑩	第1回「川本+岡本 パペットアニメーション」パンフレット(1972年) (株)エコー所蔵
⑪	第5回「川本+岡本 パペットアニメーション」より『世間胸算用近頃腹裏表』(1976年) (有)川本プロダクション所蔵
⑫	『注文の多い料理店』(1991年、岡本忠成脚本・演出、川本喜八郎監修) ©(株)桜映画社、(株)エコー
⑬	『注文の多い料理店』(1991年、岡本忠成脚本・演出、川本喜八郎監修) 色彩設定用セル画 (株)エコー所蔵
⑭	『死者の書』(2005年、川本喜八郎監督) 絵コンテ (有)川本プロダクション所蔵
⑮	『死者の書』(2005年、川本喜八郎監督) ©(株)桜映画社、(有)川本プロダクション
⑯	展覧会チラシ

画像データ貸出希望日時	月	日	時頃までに希望
読者プレゼント招待券	組	名(合計	枚) 希望します

プレス・イメージ貸出条件

1. 画像は、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。2. データを第三者に渡すことは禁じます。使用後、画像データは消去してください。展覧会の名称、期間、会場は、適切な場所、大きさを明示していただくようお願いいたします。4. 作品画像は全図で使用してください。部分使用やトリミング、作品に文字を重ねることはできません。5. 画像を掲載される際には、イメージ貸出時に添付するクレジットをご記載ください。6. 掲載紙(誌)は、1部、広報担当宛にご寄贈ください。webサイトの場合は、掲載時にお知らせください。

* 画像データ(JPEG)にてお貸出いたします。その際、一緒にお送りするキャプションもご確認ください。

* 掲載前に、校正紙をお送りください。お送りいただけない場合、掲載内容についての責任は当方では負いかねます。

お名前:

ご所属・媒体名:

出版物・放送番組名:

TEL:

FAX:

メールアドレス: